

## 2014 年度 第 1 回スノーモビル部会 議事録 【ダイジェスト版】

開催日 : 2014 年 7 月 15 日 (火) 13 時 00 分 ~ 17 時 00 分  
開催場所 : MFJ 会議室 (東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10 階)

### I. 前回議事録の確認について

---

事務局より前回議事録が報告され承認された。

### II. 2014 年度全日本選手権シリーズ開催状況について

---

事務局より、主要競技会開催状況、ライセンス人口等の資料が報告され了承された。

#### 1) ライセンス登録者数について

事務局より資料に基づき、ライセンス登録状況について報告された。

全体的に“右肩下がり”の傾向で、2010 年からは平均年齢が 40 代中心となってきている。依然として競技人口の下げ止まっておらず前年対比 93%、特に今後は年少者の人口拡大策をアカデミーや各地区の講習会や入門レースなどの設置をお願いしたい。

#### 2) 全日本開催状況について (全 5 戦終了)

- ✓ 観客数は、微増であるがほぼ横這いの 109%。ライセンス登録数は前年対比で、93%の減。
- ✓ クラス別で、A 級は、ほぼ横ばいの 99%。B 級が前年対比 90%の 10%減。新規の取得が前年対比 77%であった。また数値的にはジュニア 3 名の減少で前年対比 86%であり新規ジュニアの参入が減少した。
- ✓ 全日本参加台数は全体でほぼ横這いで 101%。特にジュニアクラスの参加が年齢による昇格で減少 (77%)。一方すでに新型車両の無い B 級 S3 クラスが 109%と約 1 割増加した。

#### ◆ライセンス人口について

ライセンス登録者 (2013 年度締め) では、A 級 99%、B 級 90%、ジュニア 86%となった。

※新潟でアカデミーを開催する等、活動して頂いているものの、ジュニア層の登録者数の減少対策を検討すべき。

※都道府県別表で、レース会場外の地区でも潜在ユーザーはいるので、バスツアー等の企画を利用してスノーモビル競技を広めていきたい。

### III. 2014 年度全日本ランキングの承認について

---

2014 年度全日本スノーモビル選手権シリーズのランキングが報告され了承された。

#### 2014 年度全日本選手権シリーズチャンピオン

SA	佐々木 雅規	選手
AS1/ AS2	佐藤 伶磨	選手
BS1/BS2	信平 竜馬	選手
BS3	笹岡 千夏	選手

### IV. 2015 年度主要競技会日程調整について

---

各地区主催者より提出された 2015 年度全日本カレンダーについて以下 5 戦のとおり承認された。

RD	日程	大会	会場
第 1 戦	1 月 25 日	新潟大会	胎内スキー場
第 2 戦	2 月 1 日	長野大会	スノーモビルランドイン斑尾
第 3 戦	2 月 8 日	真狩大会	真狩村特設会場
第 4 戦	2 月 15 日	土別大会	土別市特設コース
第 5 戦	3 月 1 日	美瑛大会	ウイズユー四季彩の丘特設コース

#### ※東北地区の状況

永年青森県で開催していたが、開催がなくなり、岩手県で町おこしに乗じて会場が使える可能性があり、現状調整を進めているが、来年早々の開催確約とまでは至っていない。継続して調整を進めて行く。

### V. 2015 年度規則変更（案）について

#### 1. スーパークラスラストチャンスの導入について（選手会提案）

国際 A 級スーパークラスにラストチャンスレースを設定してほしいとの要望が出され検討された。

##### 結論

様々な意見を考慮し検討した結果2015年より、SAクラスのみ以下のとおりシード制度を採用することになった。

- 第1戦では前年のランキング上位 2 位までをシード選手とする。
- 第2戦以降では前戦までの暫定シリーズランキング上位 2 位をシード選手とする。
- シード対象選手は、予選の結果に関わらず決勝への出場権が保証される。
- 但し公式練習と公式予選に参加していることを条件とする。
- 決勝出走台数はシード対象選手2名を含め最大で16台とし、決勝レーススタートの合図を受けること。
- シード権を行使する場合、シード選手は全予選通過者の後にグリッドを選択できる。
- 複数の選手がシード権を行使する場合、グリッドの選択順は暫定ランキング順とする。

#### 2. 選手会提案事項

##### 1) スタート 5 秒前ボード設定について 選手会要望書

現状ではスタート直前の最終コーションとして 1 5 秒前ボードが提示された後スタートとなるが、フライングの抑制、事故の抑制を考慮し 5 秒前ボードを設定頂きたい。

（ライダーは心情的に 1 5 秒間待つことがつらく長く感じているため、5 秒表示があれば 5 秒後にスタート旗は振られることなので心情的にも楽である）

##### 結論

15 秒以内でのフラッグ提示と規則となるが、現状で、15 秒待たせるスタートをしている大会は無く、5 秒前ボードは返って選手の頭の中でカウントすることによりフライングを誘発する可能性もある為、現状通りとすることになった。

##### 2) スーパークラスの特別申請枠について 選手会要望書

スーパークラスの特別申請枠について、前年までの成績(過去成績でスーパークラス・ランキング 3 位以内を獲

得たことがある等)を反映できる仕組みを再度提案され検討した結果、スノーモビル部会での特例承認の制度もある為、現状通りの人数制限で実施することとなった。

### 3. 安全対策について

#### 1) 安全対策の考え方

事務局より、近年スノーモビル競技は事故発生率が高く賠償に発展するケースも出てきていることが報告された。今後は事故の発生をできるかぎり抑えるための対策を打ち出し主催者、施設とともに事故発生防止策を講じる必要があるため下記のとおり決定した。

#### 結論

モトクロス委員会で説明された安全対策における指針が紹介され、次回以降、スノーモビル委員会において、セーフティ委員会と協議し事故防止策を検討していくことが決定した。

#### 2) 転倒後の行動について（新潟主催者提案）

ロードレース施設において、2次災害の恐ろしさ、その防止のための転倒後の行動（逃げる意識）を指導している。逃げるトレーニングを兼ねたシミュレーションを、体操マット等を使用して実施している。二次災害を防ぐためにもスノーモビル種目でも導入すべき。

#### 意見

- 転倒後、すぐに再スタートを切る際の視界は悪い。
- 自分の身の安全と後続車への二次災害防止の為に、ライダーはその場から逃げるよりエンジンをすぐにかげようとしている場合が多い。
- ライダーへの教育よりも、むしろコース役員の安全管理、フラッグ提示知識の徹底が必要である。
- 転倒したライダーが後続車に対して知らせることも必要。身の安全を守ることを優先とすべき。
- 最近の車両は重くなり、ライダーが自分ひとりで転倒車両を起こせないのが現状。

#### 結論

アクシデントの場合は、状況によって異なる為一概に言えない部分もあるが、安全対策の指針に盛り込み、今後継続検討することとなった。来年の開幕前に、安全対策に関する作業部会を開くことが決定した。

### 4. コーナーコース設営について（運営）

コーナーでのコースアウトの明確化及び安全性向上のため、以下のとおりコーナーにおけるコーステープの設置が提案され決定した。

#### 現状の状況

現状では天候などの影響により、コーステープを設定できないコーナーがあり、明確なコースアウト判定が難しい状況である。また、どこまでがコースなのか不明確なため安全面においても不安である。

#### 意見

- ・スノーモビルは、バンクの頂上に杭をたててコーステープをはるしかない。ネット等は望ましくない。（コースアウトされると絡みやすく余計に復帰が難しい）
- ・安全対策の為、各主催者の努力を要望する。

**結論（運営として主催者に通達する）**

特にコーナーアウトしやすい場所（特に S 字、ヘアピン、直角）ではコーナーアウト側にコーステープを設置頂きたい。これによりコースアウトの明確化、安全性の向上がはかれる。このコーステープをオーバーランした場合はコースアウトとする。またコーナーには競技役員を配置すること。

**VI. 委員会組織の再編について**

MFJ 組織の改編について MFJ 事務局より説明され、本会で現スノーモビル部会を一旦解散とすることが承認された。新体制再編は 1 1 月。それまでは現体制のまま運営頂くこととなった。

- 中央スポーツ委員会でビジョンを策定、確認を行うよう指導的な立場とし、各専門委員会が指導に則り、活動を展開していくよう改編する。
- スノーモビル、モータード、エンデューロを部会から委員会へ昇格。
- セーフティ委員会を新設し、装備部会（ヘルメット・スーツ）とメディカル部会を連ねる構成とする。
- すべての委員会で一旦解散とし、再編を行う。

**VII. その他について**

1) 事務局より 2015 年度 MFJ 各種制度変更点について提案され承認された。

**MFJ 事務局検討事項について**
**① 観客保険料**

競技会での賠償リスクから主催者を保護する為に設定している観客賠償保険掛金は競技会申請時に主催者から公認料とともに徴収し、MFJ が保険会社と一括契約しているが、事例の多発により保険掛金が値上がり、さらに競技会申請数の減少もあり、本制度を支える為、保険掛金を以下の通り改訂することが説明された。

<改訂提案> 全日本 SN 選手権 … (保険料) +7,000 (申請料) = 円 (合計)  
 SN 地方選手権 … (保険料) +7,000 (申請料) = 円 (合計)  
 SN 承認競技会 … (保険料) +7,000 (申請料) = 円 (合計)

※保険掛金のみ値上げとし、申請料は据え置きとされている。

※2015 年 1 月 1 日以降に開催する競技会に対し、適用とする。

**② 競技会申請期限**

2014 年 11 月から競技会の WEB 申請を行う為、申請期限を下記の通り変更することが承認された。

- 前年 11 月末 世界選手権、国際選手権、MFJGP、国際競技会
- 前年 12 月末 準国際競技会、特別競技会、全日本選手権、エリア選手権、地方選手権
- 開催日 1 か月前 その他公認競技会、承認競技会、承認行事

※2015 年 1 月 1 日以降に開催される競技会に対し、適用とする。

**③ ライセンス取得講習会について**

MFJ ライセンス取得講習会の申請料を年間で 1 度支払えば、年内は何度でも開催可能とする。また、インストラクターの資格制度の有効活用として、MX (PC・J)、TR (J)、SN (J)、エンジョイライセンス取得の権限を持たせる。

※2015 年 1 月 1 日以降に開催される MFJ ライセンス講習会に対し、適用とする。

**意見・要望**

競技会スポーツ年度（1-12 月）とライセンス有効年度（4-3 月）の整合性をとることについて、スノーモビル種目の場合は、期間が限られているものの、年間表彰のタイミングなどで問題が発生することが説明された。

部会としては他種目同様に例年通りの年間表彰式を行ってほしいと要望された。  
他種目委員会からも意見を伺い、中央スポーツ委員会で最終的に決定されることが承認された。

④ エンジョイ会員について

承認競技会の活性化対策として、エンジョイ会員の金額設定を引き下げることが報告され、承認された。

	会費	保険区分	保険料		手数料	新料金	現状
エンジョイ会員	<b>1,000</b>	<b>C</b>	<b>1,850</b>		<b>500</b>	<b>3,350</b>	<b>5,350</b>
	<b>1,000</b>	<b>A-1※</b>	<b>800</b>	※2015年3/31 まで中学生以下	<b>500</b>	<b>2,300</b>	<b>4,350</b>

※2015 年度エンジョイライセンス（有効期間：2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）から開始とする。

2) はとバスツアー・スノーモビルアカデミーについて

主催者である新潟・高橋オブザーバーより今年初のはとバスツアーおよびスノーモビルアカデミー開催の報告がなされ、多数の参加者に参加頂いたことが報告された。

また来年度も開催を検討しているため全国委員に PR 等をお願いしたいと要請された。

3) ジュニア（入門者）を育てる為の施策について

事務局よりスノーモビル若年層の会員の減少対策と入門者拡大策について提案され継続検討となった。

3) 災害ボランティア活動（新潟県）

小型雪上車災害ボランティア隊を設立し、MFJ 関東の中の組織として認めて頂き、国土交通省と協定を結び現在活動を始めていることが報告された。モビルのイメージアップの為にも今後積極活動していく。

4) スーパークラスの登録人数について

スーパークラスの登録人数について、登録人数を最小限に絞り、付加価値を高める為に A 級との入れ替え方式などを検討していくこととする。例：登録人数を 16 名に絞る。

以上  
17:00 閉会  
スノーモビル部会  
部会長 大月 信和